

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スケジュール内容に変更が生じる場合があります。文学館ホームページ等で確認いただくかお問い合わせください。

利用案内・交通案内について

- 開館時間 展示部門
午前9時30分から午後6時まで(観覧受付は午後5時30分まで)
研修室・和室
午前9時30分から午後9時まで
- 休館日 火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始
- 交通案内
 - 富山駅南口(JR・あいの風とやま鉄道)から
 - ・市内電車 「大学前」行または環状線乗車、「県庁前」下車、徒歩5分
 - ・コミュニティバスまいどはや 「西ルート」乗車、「富山中部高校前」下車、徒歩2分
 - ・ぐるっとBUS 「北西回りルート」乗車、「高志の国文学館」下車
 - ・徒歩 約15分
 - 富山空港から
 - ・タクシー 約20分
 - 北陸自動車道富山ICから
 - ・自動車 約20分
- 駐車場
駐車料金は、最初の1時間まで330円です。以後、30分毎に110円が加算されます。ただし、文学館利用者については、3時間まで無料となります。館内で、駐車券の認証を受けてください。(認証を受けない場合、無料の特例を受けることができません。)
※駐車可能台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



高志の国文学館では、Facebook、Twitter、Instagramで最新情報を発信しています。ぜひフォローしてください!



高志の国文学館

KOSHINOKUNI Museum of Literature

〒930-0095 富山県富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492 FAX 076-431-5490
http://www.koshibun.jp/

展覧会スケジュール 2021.4 ⇒ 2022.3

高志の国文学館

KOSHINOKUNI Museum of Literature

常設展

富山県は、万葉歌人・大伴家持が223首もの歌を詠んだ越中万葉ゆかりの地です。また、堀田善衛や源氏鶏太、角川源義といった作家を輩出しているほか、宮本輝の『蜚川』、柏原兵三の『長い道』、新田次郎の『剣岳 点の記』など、富山を舞台にした文学作品も多数あります。さらに富山県は、映画界では滝田洋二郎や本木克英、細田守を輩出し、漫画では藤子不二雄①、藤子・F・不二雄らの作家を生んでいます。常設展では、これら富山県ゆかりの作家や作品の魅力を幅広く紹介しています。

また、文学館に寄贈・寄託された作品等を紹介する特別コレクション室や、富山県ゆかりの作家に焦点を当て、詳しく紹介するクローズアップコーナーなどを設置し、テーマごとに深く掘り下げて展示しています。

さらに、美しい「万葉の庭」を眺めながら本を読める「ライブラリーコーナー」や絵本を楽しめる「親子スペース」など、無料ゾーンも充実しています。

観覧料

- 常設展 一般200円(団体160円)
※団体料金は20人以上の場合
※70歳以上の方の常設展の観覧は無料になります。
(年齢を証明できるものがが必要です。)
- 企画展 展覧会によって異なります。
企画展観覧券で常設展示もご覧いただけます。

次の方は常設展・企画展ともに無料でご覧いただけます。

- 小・中・高校・特別支援学校の児童・生徒及びこれに準ずる方(大学生は常設展のみ無料)
- 各種障害者手帳をお持ちの方及び付添いの方(付添いは手帳をお持ちの方お一人につき1名まで)

※学校教育・社会教育活動として児童・生徒が観覧される場合、引率者の方も観覧料が無料になります。あらかじめ「観覧料免除申請書」に必要事項を記入のうえ、事前に当館まで提出ください(FAX可)。
観覧料免除申請書はホームページからダウンロードできます(PDF、Word)。

※都合により、記載内容を変更する場合があります。
詳しくは高志の国文学館HPをご覧ください。

主催：高志の国文学館 共催：北日本新聞社、富山テレビ放送
特別協力：本木克英 協力：エース・プロダクション、富山県ロケーションオフィス

「映画監督 本木克英展」

2021年4月29日(木・祝)～6月21日(月)

観覧料 一般500円(400円) 大学生250円(200円) ()内は20名以上の団体料金 一般前売り400円

富山県出身の映画監督・本木克英。「釣りバカ日誌」シリーズ、「超高速!参勤交代」「空飛ぶタイヤ」など話題のエンタテインメント作品をつぎつぎに撮る一方で、テレビドラマや舞台の演出の場でも活躍しています。最近では、ラブストーリーやミュージカル、時代劇といったさまざまなジャンルの映画のメガホンをとる、いま最も期待を集める映画監督の一人です。2021年1月には、映画「大コメ騒動」を公開しました。登場人物の人となりや、その背景にある時代・社会を描いて、リアリティや社会的なメッセージを大切に作る監督の作品では、人と人とのふれあいや人間の温かさ、面白さが笑いになって表現されています。



本展では、本木克英監督のエンタテインメント映画の世界を、代表作を通じて紹介します。また、人情喜劇を数多く手がけてきた監督の映画力にインタビューをまじえてまいります。



主催：高志の国文学館 共催：北日本新聞社 後援：NHK 富山放送局 監修：(公財)周南市文化振興財団

「まど・みちおのうちゅう展」(仮称)

2021年7月10日(土)～9月13日(月)

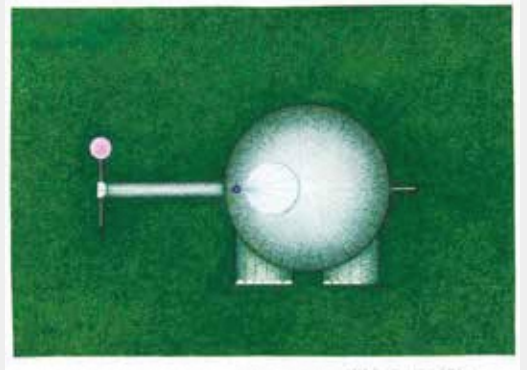
観覧料 一般500円(400円) 大学生250円(200円) ()内は20名以上の団体料金 一般前売り400円

「ぞうさん」「やぎさん ゆうびん」「一ねんせいになったら」。誰もが一度は口ずさんだことのある童謡や詩で知られるまど・みちお(1909～2014)。まどの童謡や詩は、かけがえのない生命を優しい眼差しでみつめ、ちいさな子どもにもわかることばで書かれています。1994(平成6)年には児童文学のノーベル賞と呼ばれる「国際アンデルセン賞・作家賞」を日本人として初めて受賞しました。生涯にわたって書き続けた、2,000を超える作品は、子どもから大人まで、また日本のみならず世界中に読者の輪を広げています。

本展では、詩稿と絵画の展示のほか、詩を題材とした絵本の原画展示、紹介映像の放映、国際アンデルセン賞の受賞挨拶、上皇后美智子さまの「リンゴ」の英訳と朗読などにより、まどの独特の宇宙を紹介します。



写真提供：周南市美術館



まど・みちお 「ぞう(さん)」周南市美術館蔵

主催：高志の国文学館 共催：北日本放送 後援：富山新聞社
特別協力：日本近代文学館 協力：(公財)三鷹市スポーツと文化財団

「太宰 治 創作の舞台裏展」(仮称)

2021年10月2日(土)～11月21日(日)

観覧料 一般400円(320円) 大学生200円(160円) ()内は20名以上の団体料金 一般前売り320円



所蔵：日本近代文学館

太宰治の作品は、独特のささやくような語りの文体で若い読者を捉えています。『走れメロス』『斜陽』『お伽草紙』は中学校の教科書、『富嶽百景』『トカトントン』は高校の教科書にそれぞれ採用されるなど、若い世代に広く知られる、最も人気のある作家のひとりです。

本展では、これまで紹介されることの少なかったノート、原稿、草稿、写真など貴重な資料を紹介します。また、「語りの文体」と称される創作の舞台裏に迫り、資料を読み解き、太宰文学の魅力はどのように生みだされたのかを探るとともに、『女生徒』『黄金風景』『満願』などの中期の明るく、家庭的な愛情あふれる作品にスポットをあて、あらたな太宰像を提示します。



主催：高志の国文学館 共催：北日本新聞社、チューリップテレビ

「個性きらめく富山の女性作家たち展」(仮称)

2021年12月4日(土)～2022年2月28日(月)

観覧料 一般400円(320円) 大学生200円(160円) ()内は20名以上の団体料金 一般前売り320円

富山には、小寺菊子、遠藤和子、木崎さと子、辺見じゅんなど、明治から現代にいたるまで、多彩なジャンルで活躍する女性作家たちが数多く存在します。本展では、ふるさとの風土を背景に、自分らしく生き、個性的な作品を発表し続けた富山ゆかりの女性作家たちを一堂に紹介します。没後10年を迎える辺見じゅんは特別コレクション室でも取りあげます。



開館10周年プレ企画展 主催：高志の国文学館 共催：北日本新聞社、北日本放送 特別協力：柏原光太郎

「没後50年 芥川賞作家 柏原兵三展」(仮称)

2022年3月20日(日)～6月6日(月) 企画展の詳細は次年度の「展覧会スケジュール」でお知らせします。